

2006年(平成18年)1月11日(水曜日)

高まるAEDへの関心

都市部中心に設置増える

心停止した人の心臓に電気ショックを与えて機能の蘇(そ)生を図る「AED(自動体外式除細動器)」が東三河の都市部を中心に普及体勢に入った。

豊橋鉄道では先月、渥美線の新豊橋駅と高師駅に設置し、さらに全職員約4割に当たる、電車、バスの乗務員、駅員ら約150人がAEDの使い

方を学ぶ講習を受講した。「将来的には、渥美線の別の駅や、豊橋駅のパス停にも設置したい」と同社。JR東海、名鉄でも東三河への設置も前向きに検討している。

昨年、東三河の自治体を中心に30台贈った「豊橋ハートセンター」は、「設置数が多ければ多いほどいい」と、今年も1

台約30万円のAEDの寄贈を行う予定。

AEDの普及に合わせ、豊橋市消防本部は、普通救命講習にAEDの使用法を組み入れた。今

設置台数も徐々に増えているAEDは、豊橋市役所で

年も講習に力を入れる。AEDは、医療法の改正で一昨年7月から医師などの資格がなくても使用できるようになった機器で、最近市民の関心が高まっている。(竹下貴信)

